

山行報告

■六甲山縦走路の第4クォーター(宝塚～ガーデンテラス)を歩く

- 日 程：3月16日(土)
- 参加者：L藤本 SL須増 小田(敏) 田中(重) 田中(由) 谷口 苦瓜 西川 村上 矢根
- 行動記録：宝塚駅8:25 発～塩尾寺(9:10 着)9:20 発～大谷乗越(10:20 着)～船坂峠(11:15 着)～一軒茶屋(12:30 着)12:40 発～ガーデンテラス(13:20 着)

◆寒くてしんどかったが楽しかった東六甲縦走

西川

朝、玄関先で“ピカッ”と閃光、同時に“ゴロゴロ”と雷鳴、そして“ザー”と雨。これは中止かと藤本リーダーに電話するが、冷静な声で“予定通りに行きます”。重い気持ちで駅に向かう。JR の車窓から眺める六甲山系の中腹には霧と白い雪らしいものが見える。“寒そー”。阪急電車に乗り換え宝塚へ。

駅前の広場でストレッチの後、8時30分頃スタート。逆瀬川を渡る風が冷たい。思わず耳当てをする。

塩谷川沿いの急坂を登る。だんだん寡黙になっていく。40分位で塩尾寺に着く。“エンペイジ”とは普通読めないのか、石の門柱にフリガナが書いてあった。そこからは山歩きらしい雰囲気になり、これで天気が良いれば最高なのだが。雨が降ったと思えば日が差し、また雨の繰り返し。しかも今朝降った雪が熊笹の葉や木々の枝に積もっている。霧も出て見晴らしの悪い中、アセビの白い可憐な花と赤い椿の花が唯一の慰めである。何度か車道を横切るが、なかなか頂上に着かない。思えば25年程前、11月に六甲全縦したときは、一軒茶屋で午後4時を過ぎていて宝塚への下りに入ってからもう暗くなっていたのでヘッドライトの灯しか見えておらず、景色はまったく見えてなかった。そんなことを思い出しながら11時15分頃船坂峠を通過、“ここは赤穂か!?”一人でツッコミを入れながら歩く。そこから何度か上り下りを経て12時15分頃やっと石の宝殿近くの車道に出る。登りから解放され皆の顔が明るい。雨がアラレに変わる中12時30分頃一軒茶屋に着く。予定では13時20分なので50分早く着いたことになる。風があるので手が冷たく、早々に出発する。皆さんの腹が減ったの声を聞きながら1.2kmを50分

で歩き13時30分頃ジンギスカンパレスに到着。店内に入りやっと心地ついたところでラム肉の食べ放題。皆、さっきまでとは違い幸せそうな顔でおいしく頂いた。バスと六甲ケーブルで下界に降り今回の山行も無事終了した。



お世話いただきました藤本リーダー、お肉を焼いていただいた須増サブリーダー、ご同行の皆様方本当にありがとうございました。

■高御位山縦走（トレーニング及び各自脚力・歩荷力確認縦走）

- 日 程：3月16日(土)
- 参加者：L 森本 SL 上田 徳本 松本
- 行動記録：JR 御着駅 8:40 発～深志野登山口(9:20 着)～桶居山(10:25 着) 10:30 発～桶居山分岐(11:55 着) 12:00 発～高御位山(12:55 着) 13:00 発～北山分岐(13:55 着)～辻登山口(14:30 着) 14:40 発～JR 宝殿駅(15:10 着)

◆高御位山縦走に参加して

徳本

この日は、早朝 雷の音で目が覚めました。雨も降っていたので今日の山行は、中止かなと思っていたのですが、だんだんと晴れてきました。

集合場所の御着駅では、すっかり晴れて青空が見えていました。御着駅から少し歩いて御着城跡で準備運動をしました。しばらく行くと桶居山が見えました。あんな高い山まで登るのかと思ってちょっと不安になりました。民家の細い道を入るとすぐに登山口がありました。最初から急な山道を登って行きました。この山道はすいすいと登ることができました。でもな



かなか桶居山には着きません。結構岩場があって足を高く上げないと登れないようなところもありました。やっとなだらかな登山道に着いたと思ってもすぐ急な登山道になって足が疲れてきました。急な岩場を下りました。心臓破りの岩場だと聞き、やっぱりと思いました。この岩場は、登ったことがあるのですが、登った後心臓がパクパクして大変だったことを思い出しました。上りでなくて下りでよかったと思いました。

しばらく尾根を辿っていくとやっと桶居山に着きました。下から見えたあの高い桶居山に来たと思って感激でした。しばらく下って行きました。発電パネルが見えました。とてもたくさん広い範囲に設置してあるので驚きました。今は新しいけれど、20年後30年後 どうなっているのかと思いました。自然破壊につながるのかなとも思い少し嫌な気持ちになりました。雨でぬかるんだ登山道を下って行きました。下ると今度は、上りです。急な上りでしたが、ロープが設置してあったので助かりました。上りがたくさんあってやっとの思いで広い岩場に出てきました。見晴らしがよくて気持ちがよかったです。

しばらく下って行くと高御位山の鹿島神社に行く登山道に出ました。今度は、慣れた尾根を登って行きました。いつも登っている登山道なので安心でしたが、足が疲れてきました。見晴らしの良いところでお昼を食べました。

次は、高御位山の頂上を目指して出発しました。15分ほどで高御位山の頂上に着きました。最後まで行けるか不安でしたが、頑張って挑戦しようと思いました。今度は岩場を下って行き

ました。いくら下っても岩場が続いていました。長い岩場でした。リーダーさんの「下に見える山の向こう側まで行きます」という声に「えっ」と何回も聞きなおしました。もうすぐかなと思っていましたがまだまだでした。途中、豊臣秀吉が座って志方の方を眺めたという大きな太閤岩がありました。ここを過ぎるとすぐ下りでした。やっと辻登山口に着きました。この時期としては早い山桜やツツジの満開の花を見ることができました。

今日の山行では、途中何回も足がつりそうになりましたが、予定通り高御位山、播磨アルプスが縦走できました。リーダーさんはじめ、メンバーの方々お世話になりました。ありがとうございました。

■吉備路全山縦走（第5回吉備路全山縦走大会・35kmに参加）

●日 程：3月17日(日)

●参加者：L尾内 SL三木(悦) 尾越 笹木 砂川(延) 須増 高島 安田

●行動記録：県立大学駐車場(6:15着)6:20発～JR服部駅(6:30着)受付・スタート6:40発～砂川公園(7:00着)7:10発～鬼ノ城ビジターセンター(8:35着)8:40発～岩屋休憩所(9:55着)10:00発～奥坂休憩所(11:30着)11:50発～足守小学校(12:40)12:45発～龍泉寺(13:40着)13:50発～龍王山(14:05着)14:15発～高松稲荷グランド(14:40着)～神崎農園(14:50着)14:55発～大平山(16:10着)16:20発～吉備津彦神社(17:10着)17:25発～吉備津神社ゴール(18:10着)18:20発～JR吉備津駅(18:35着)18:36発～JR服部駅(18:50着)～県立大学駐車場(19:10着)19:20発

◆早春の吉備路へ

高島

JR 桃太郎線服部駅前を6時45分バーコードリーダーで参加証のバーコードを読み取りいざ出発。のどかな田園風景を見ながら北上すると、アウトドアスポットの砂川公園で桃太郎さんとハイタッチを交わしてボランティアの方々に見送られました。35kmの行程に不安を抱えながらでしたが、これから始まる楽しみで、ウキウキ気分で山道に入りました。

まず初めに、桃太郎伝説のモデルとなった鬼ノ城を目指します。所々木の枝には、標語で私達を応援して下さる配慮に感動しました。「吉備の山 出会う笑顔に 春が来る」「吉備の山 今年も歩こう 山友と」「やめようか いやもう少し 吉備の山」等々10種類ほどのカードが全コースに散りばめて下さっていました。鬼の釜を通り標高400mからの眺望は最高でした。古代朝鮮式山城の遺構で謎の遺跡が山頂一帯を約3kmも取り巻き、岡山平野がこの時間だけ晴れ渡り一望できました。

次に目指すは岩屋めぐりです。自然の浸食や隆起によってできた、鬼の差し上げ岩や鬼の昼寝岩等、奇岩・巨岩がありインスタ用の写真を撮る人多数あり。

そこから、長い長い下り道、途中で雨合羽を身につけ奥坂休憩所に11時30分に着きました。ここではヤマザキのあんパンとプリプリイカ天の差し入れを頂きました。歩き始めて5時間の疲れた体と胃袋に元気をもらい気持ちを新たに進めました。

血吸川、足守川この辺りの水はどれも綺麗な澄んだ水が流れ心も洗われます。



奥坂休憩所から1時間歩いた足守小学校では、カルピスウォーターの差し入れを頂きました。

ここで足が余りにも痛いので靴を脱ぎ、足指の体操をすると少し楽になりました。陣屋町足守の街並みには、お雛様があちこちに飾られ大正・昭和初期のものや陶器・組木で作ったお雛様を懐かしい気持ちで写真に撮り納めました。

日本の原風景の集落を進み続くアスファルト塗装の坂道を1時間歩くと、龍泉寺にたどり着きました。御滝では滝行もできます。そこからさらに長い階段を登って行くと、龍王池の山頂に奥の院一乗寺が標高286mにありお寺さんからの有り難いお心遣いの飴をお一つどうぞ。と置いて下さっていました。山の上には龍王池が深緑に満たされており、その端には赤い鳥居と身代わり地蔵がありました。綺麗な景色に元気をもらい、下り道を猛スピードで進み、高松稲荷グラウンドで通過のバーコードチェックを受けたのが14時40分でした。さらに15分ほ



ど歩くと、神崎農園で鬼さんが出迎えてくれました。私は腰を下ろしたくて休んでいましたが、こんにやくから揚げが売っていたようで、レモンやミカンも新鮮で安いようでした。この時点で15時です。

次は三光山のピークと大平山のピークを目指します。前をみると、ひたすら続く上り道で、頭がクラクラするので、足元だけみて前の人に続くことにしました。どちらの山も200m足らずのピークですが、疲れた体にはきつかったです。大平山山頂で

は、桃太郎さんがきびだんごの一つ持って、待っていてくれました。ここは見晴らしがよく、本日の縦走して来た山々が確認できました。

残すは吉備中山のピークとなりました。そのふもとに吉備津彦神社がありましたが、お参りも出来ず、17時10分にバーコードの読み取りチェックのあと、熱くて甘いぜんざいのおもてなしに救われ、最後の山を登りました。吉備中山茶臼山古墳は宮内庁が管理していると書いてありましたが、心はゴールを目指すだけ、ただ歩くのみでした。立派な吉備津神社の正門前がゴールで18時20分薄暗くなっていました。吉備津神社は18時閉門で残念ながら、中に入るには間に合いませんでした。

人生初めての35kmの縦走に挑戦させて頂きましたが、ゴールの後は疲れすぎてもう来年は参加できないと思ったのですが、3~4日後に疲れがとれると辛かったことが消えていき綺麗な景色や春を告げる花々、昔をしのぶ風情、関係者の方々の配慮やお心遣いが感謝として残ってきました。一人では完歩できなかったと思い、リーダーさんの時間配分とご一緒させて頂いた皆様のおかげで達成感に浸ることができました。ありがとうございました。出来たら来年も参加してみたいです。

縦走中4箇所接待を受けました。

*奥坂休憩所、いか天1個・菓子パン1個

*大平山山頂、きび団子

*足守小学校、カルピスウォーター500ml

*吉備津彦神社、ぜんざい

■天狗岳(八ヶ岳) 雪の天狗岳に登る

＜アルプ山行＞

- 日 程 : 3月23日(土)～24日(日)
- 参加者 : L竹内 SL三木(悦) 谷口 松下
- 行動記録 :

(23日) 渋の湯登山口(12:45着)13:30発～八方台分岐(14:20着)14:25発～唐沢鉱泉分岐(14:40着)14:45発～黒百合ヒュッテ(15:30着)

(24日) 黒百合ヒュッテ 7:40発～中山峠(7:50着)～稜線(8:00着)8:05発～中山分岐(8:10着)～黒百合ヒュッテ(8:20着)～黒百合平・雪上トレーニング～8:45発～唐沢鉱泉分岐(9:20着)～八方台分岐(9:40着)9:45発～渋の湯登山口(10:30着)

◆アルプの門戸を叩いて

松下

アルプの門戸を叩いて、しばらく封印していた雪山を今シーズンは再開してみようと思った。まず、身体慣らしに一般山行の2月末の北八・北横岳へ参加して、雪山での初歩の感覚を取り戻す事を課題とした。今回のアルプ山行の北八・天狗岳ではリーダーはじめメンバーのアシが分からないのと自身の雪山プランクが心配だったが、出来る範囲で自主トレをして臨んだ。今回は小屋泊であり、小屋の建つ黒百合平までのアプローチがコースタイム2時間20分～3時間(山と渓谷社;編集者によって異なる)であるから、荷物も軽いしなんとか歩けるだろう、そして、ここから先の天狗岳山頂までは体調と天候次第であろうと考え参加表明した。

・・・その結果は・・・

気象担当の事前情報からピークアタックの24日は曇後晴、2000メートル付近では気温-4℃～-7℃、風は7～8m/s、3000メートル付近は気温約-10℃、風は15～16m/sという事だった。直前情報では稜線上での風は24m/s、気温は-15℃、天気図は寒の戻りで寒気が下りてきて幅が広

めのたてじまの等圧線になっていた。体感温度はもっと低くなるし、登頂は難しいかとも思いながら、地形図と計画書、ガイドブックを確認してパッキングした。

23日にリーダー運転の車で宝殿駅を出発し、信州そばの昼食も挿んで渋の湯登山口に到着。準備を整えてストレッチ後、ストック&アイゼンにて出発する。登山ポスト前の橋を渡り、樹林帯の山腹を登って行く。しばらく北斜面のため、雪面が凍っていたりする箇所もあったが、雪もしまっているので歩きやすい。久しぶりの12本爪でフラットフットイングを心がけながら尾根側面の登りが続き、しだいに汗ばんでくる。足が重いなあと思いながら歩いて行くと、傾斜が緩んで八方台分岐に出た。ここは通過して、よく踏まれたトレースを追いながら尾根上のゆるやかな傾斜を登って行った。曇っていて天狗岳は見えない。唐沢鉱泉分岐をすぎると、無雪期は岩がゴロゴロした歩きにくい谷へ入って行く。ストックを握った指先が冷たいなと感じながら深いシラビソの原生林を抜ける頃、ソーラーパネルが見えて黒百合ヒュッテに到着



(-19℃)。登山口から休憩込みの2時間。早い！ハヤアシに回遊魚コンビにはかなわんワ！（*森の精のつぶやき*）

黒百合平にはテントがいっぱい！アイゼンを外して登山客で賑わう小屋へ入るなり、「滑落してヘリ要請した！」とかの声が飛び込んできた。事故者が出た模様だった。

外はパウダースノーがチラチラ。今日はリーダーのお誕生日とか・・・。薪ストーブの燃える暖かい山小屋ラウンジのすみっこで持参のコーヒーとパンでささやかなお祝いをする。また、夕食時には会計担当の計らいからMカードで缶ビールをゲットして乾杯！夕飯のメニューは主菜がハンバーグでデザートに葛饅頭。朝食は生卵がついて、フルーツも一切れつく。ご飯も美味しかった。

夕食後、天気予報の時間だけテレビのスイッチが入った。予報通り、天気図はたてじまの太い等圧線が入っている。

翌朝、朝食前にお湯を買いに食堂へ行くと、小屋の主人から「今日は登っても何も見えないし、風速24m/sだよ。出発を午後3時くらいまで遅らせれば別だけど。」と、やんわりと忠告をもらった。出発を遅らせて、各自でストレッチする。リーダーから、「せっかくここまで来たから、中山峠まで行ってみよう。稜線に出ると、強風になるから山頂は無理だと思うけど・・・」と、提案があってアイゼン&ストックで出発した(-14℃)。予想通り、シラビソの樹林帯を抜けて稜線まで出ると岩肌が見えている。すさまじい風の中、コメツガの樹氷が綺麗。登って行く人、戻る人など対応は様々で、鼻からツラ



ラが下がったまま硫黄岳から縦走してきたというパーティーなど強風でも行動している人もあったが私達は戻る事にした。そして、黒百合平でピッケルを使って雪上トレーニングをすることにした。ピッケルの刃で顔などを傷つけないようにと注意喚起してから、リーダー主導で実践練習をした。緩斜面を使っての滑落停止、急斜面でアイゼンの前爪を使ってピックを刺しながら登下降、斜面をトラバースする時の足の置き方にピッケルの使い方、耐風姿勢のとり方など、雪山の基礎を初心に戻って確認しながら練習した。これらは通常は雪山へ入る前に行うトレーニングだけれど、今後に向け有意義であったのではないかと思う。これをステップに次につなげようと思いながら、黒百合平を後にして渋の湯登山口へ無事下山した。温泉入湯後、下諏訪で美味しい鰻を食べて胃袋も満たし、帰路も安全運転にて加古川駅で解散した。

久しぶりのマイナスの世界で登頂云々より雪山の魅力をあらためて感じた山行だった。計画してくださったリーダー、ご一緒してくださった皆さん、楽しい雪山山行をありがとうございました。

雪上トレーニング内容

- *ピッケルを使い滑落停止
- *トラバースの歩行
- *耐風姿勢
- *転び方を想定した滑落停止
- *急斜面の登下降

■家島あるき 1回目(家島本島)

- 日 程 : 3月26日(火)
- 参加者 : La 上田 SLa 藤原(千) 阿部 内海 河合 笹木 砂川(延) 矢根
Lb 大谷 SLb 和田 泉 切貫 澤田(律) 島本 砂川(美) 三木(勉)
- 行動記録 : 真浦港(9:48着)10:00発~尾崎鼻灯台(10:30着)10:40発~アイランドハウスい
しま(11:40着・昼食)12:15発~宮港(13:20着)13:30発~家島神社(13:55着)14:05
発~宮港(14:35着)14:50 発

◆国生みの島、家島本島をあるく

矢根

姫路港から、9時10分発の高速いえしまに乗船し30分で真浦港に到着。
真浦港ふれあいプラザの方に坂が多いですよと聞きストレッチをしてから出発です。途中、
こちら、灯台の表示に尾崎鼻灯台に行きましたが、海が見えず、展望もなく
残念でした、しかし、ヒトリシズカの白い花に出会えました。

海を見ながら、ヤマザクラ、ミモザ
の花、アカシアの並木を見ながら「ア
일랜드ハウスいえしま」で昼食をと
り、家島B&G海洋センター、家島中
学校、宮港と天神鼻の家島神社、
160段の階段はつらかったです。

清水公園から宮港に戻って予定より
早く2時50分の船に乗り姫路港に戻って来ました。

お天気にも恵まれ、よく歩いた、いい家島本島でした。次の第2回もぜひ参加したいです。
リーダーはじめ参加のみなさまありがとうございました。



◆紺碧の空と海の家島ウォーキング

切貫

未だ行った事の無い家島~嬉しくて胸がワクワクしていました、先ず家島と書いて~いえし
ま~えじま~えしま~と読むそうです。

家島の名前の由来~嵐を避けて寄港された神武天皇が波の静けさを家の中にいるようだ
と例えられたようです。当日は快晴~紺碧の空と海が綺麗~最高のウォーキング日和です。
飾磨港から船で25分もすると真浦港へ着きます。

先ず西方面へ向かって~途中で計画になかった灯台へ行ったのですが此处からは、景色が
見なくて残念でした。

少し早いお昼をさくら公園で~此处からの景色は最高でした。北へ降りて来て海沿いに東の
端へ~160段の階段を登って家島神社へお参りした後は帰りの船着場へ~宮港から乗船して
午後3時20分頃に飾磨港へ到着。

全員怪我も無く無事に帰宅出来た事に感謝の家島ウォーキングでした。

■七種山縦走

- 日 程 : 3月31日(日)
- 参加者 : La 和田 SLa 島谷 兼澤 Lb 赤木 SLb 三木(悦) 田中(重) 徳本 藤原(浩)
Lc 藤本 SLc 山本(清) 乙坂 西脇 森下 吉村
- 行動記録 : 野外活動センター8:35発～尾根出合(9:05着)9:10発～393.2三角点(9:40着)
9:45発～七種槍(10:50着)11:05発～小滝林道駐車場(11:50着)12:15発～七種山
(13:10着)13:30発～山門前駐車場(14:25着)14:45発～野外活動センター(15:10着)

◆福崎町七種山(683m)山行きつかった！満足しました！

西脇

久しぶりの山行だ。今日は雨の心配もない…いい天気を期待。

現地集合の青少年野外活動センターに集合時間30分前に着く。

七種山は近くて魅力ある山という事で期待十分。但し、きつい登りについていけるか？心配でもあった。

3班に分かれて、野外活動センター横の登山口から出発。すぐに急登が始まり、呼吸調整もままならず苦戦する。少し登ったところで西の七種山中腹に虹が見えた。これから晴れるのか？それとも変わりやすい天気となるのか？

急登から尾根に出るが、少し風が強いようで岩稜歩きも帽子をとられないよう注意。393mの奥山の後、ザーザーと一段と強くなった風と時折の雨・あられ。…ほんとうは春のぼかぼか陽気とつつじをめでたかったのだが。つつじも寒いのかまだつぼみが大半。…アセビは白い花をみせていましたが。

落石注意の鎖場がつづく岩稜。そんななかやっと577mの七種槍へ。やっと一息。

景色もよく話もはずみ、ここで班写真を撮る…ハイ・ポーズ。

そして足もと注意で下り、次に小滝林道駐車場へ。やっとここで昼食をとることに。少し前からおなかがクークーなっていました。ただ、ここから七種山、山頂への急登が始まるとの事で控えめに済まず。案の定、このあと階段状の急登にギブアップ寸前になるが、休憩を重ねて山頂683mに。山頂の北東面の奇岩“つなぎ岩”(幅40cm深さ約15mの隙間あり…)をこわごわ覗いてみる…。そして、みんなで登頂写真…満面笑み。

さあ、下山。急な下りに転がり落ちないようにする。30分ほどの苦闘の後、やっと七種の雄滝・七種神社に降り立ち一安心。休憩。雄滝は落差72mとか。水量の多いときの眺めは圧巻だろうな。

ここからは滝、沢の流れに沿って歩き、そして林道歩き。無事、野外センターに到着！

きつかったが、大満足。リーダーさん、みなさんありがとうございました。



つほね ■局ヶ岳 伊勢の槍ヶ岳

● 日 程 : 3月31日(日)~4月1日(月)

● 参加者 : L砂川(延) SL森本 笹木 佐々木 瀧原 中村 廣岡 松下 村上 安田

● 行動記録 :

(31日)山陽高砂駅 7:55 発~JR 宝殿駅 8:10 発~加古川 BP8:15 発~奈良大倉 S.R(10:00 着)10:10 発~飯高道の駅(11:20 着)11:30 発~局ヶ岳神社(11:40 着)12:10 発~局ヶ岳(14:24 着)14:45 発~局ヶ岳神社(16:15 着)16:30 発~飯高道の駅(16:40 着)18:00 発~つつじの里・荒滝(18:10 着)

(1日)つつじの里・荒滝 8:55 発~飯高道の駅(9:00 着)9:10 発~飯高道の駅(12:30 着)13:40 発~JR 宝殿駅(18:10 着)18:15 発~山陽高砂駅(18:30 着)



◆伊勢三山のひとつ局ヶ岳

村上

3月31日うす曇の山行日和です。大阪から奈良の山間を一路三重へ。桜の蕾がトンネルを抜けるごとに開いていきます。昼前に道の駅飯高駅で昼食を購入し、登山口にある局ヶ岳神社に向かう。桜は見事に咲いている木が何本もあり、お花見をしながら昼食を摂る。

12時過ぎ、いよいよ神社を後に登山スタート、旧登山道はスギ・ヒノキの木立の中をもくもくと登り、小峠からは小雪も舞い始めたが足元にはもうすぐ咲くであろうカタクリの葉が出始めている。狭い急尾根を登りきると局ヶ岳(1029メートル)頂上に到着。伊勢三山のひとつで尖った山の形から「伊勢の槍ヶ岳」と称されるほど展望は360度バツグン。三峰山や俱留尊山、伊勢湾も遠望できる。下山は小峠まで引き返し新登山道(平成6年から7年に整備されたコース)を下る。スギ・ヒノキの植林帯にジグザグの整備された登山道を新登山口に出た時は、あまりにも単調な下山道に心底ほっとした。局ヶ岳神社までの車道はゆるゆると歩きやがて桜の園に無事に戻り着きました。

宿までの途中、道の駅飯高駅の天然温泉にゆっくりと入り、足の疲れを癒しました。駐車場からは天を突き刺すような鋭い山容の局ヶ岳を眺めて、つつじの里・荒滝へ向かいました。宿は貸しきり状態で、夕食のボタン鍋もとても美味しかったです。

◆局ヶ岳2日目

中村

4月1日出発前、宿の周囲を散策。空気はヒンヤリ、肌寒いけど、桜はちょうど見ごろ。足元にはワラビがニョキニョキ。早春を満喫することができた。

局ヶ岳のふもとは、かつて和歌山と松阪を結ぶ街道があり、お伊勢参りの参道として、また紀州の殿様が参勤交代のルートとして、多くの人が行き交う賑やかなところだったらしい。旅籠や由緒ある神社、そして神社を護る巨木など、いにしえを感じさせる。極めつけは、伊勢と大和の国境の珍布(めずらし)峠。春日大社の祭神の天児屋根命(あまのこやねのみこと)と伊勢神宮の祭神の天照大神(あまてらすおおみかみ)が会って境を決めたとされる峠。立山のアルペンルートの雪道をイメージさせるような、岩山を削り、岩壁に挟まれた道で、吹き通る風が涼しかった。シニア2名のガイドさんは、「まだ他に古書に残る街道があるので、整備をして、観光につなげたい。」と話されていた。町の高齢化が加速し、地元産業の林業は衰退しているらしく…古道が人を呼び寄せる町おこしになればいいなあと思った。

街道に沿って流れる櫛田川は蛇行していて、周りの岩石を削り、流れも速い。倭姫命(やまとひめのみこと)が姿を映して化粧をしたと伝わる、川のほとりの姿見の池より下り、光る石が昇り龍を描いている岩壁まで案内された。龍はもちろんきれいだったが、私は龍を描いている岩壁にロープワークを連想してしまった。リーダーもそうだったらしく、三点確保でお手本をみせてくれ、メンバーもそれに続いた。川辺の岩壁を見てワクワクしていた自分がちよっぴりおかしかった。

阪神高速まで帰ってきたらにわか雨に会うが、後ろを振り向くと大きな虹がゲートのように渡っていた。さっきまで、縫うように走ってたけど、凍てついた高見山系や、奈良の田舎道がはるか遠くの空間だったような…

古い歴史に触れ、早春を感じた楽しい山旅になりました。リーダーをはじめ、メンバーの皆様、ありがとうございました。

【概念図】



■高森ボランティア

- 日 程：3月16日(土) ● 場 所：馬の背
- 参加者：内海 澤田(律) 島本 荘所 砂川(延) 待場 和田

◆活動報告

砂川(延)

作業場所は鹿島神社大鳥居から上がった馬ノ背登山道の雨水の流れを付け替える作業を10箇所程度行いました。当日は神戸新聞東播支社から小森記者が取材に訪れ、作業状況を取材、高森ボランティア活動の現在の状況などを取材され、翌日17日の東播版に記事が掲載されました。また、この記事に合わせて「初めての山歩き教室」についても掲載がありました。

【3月17日(日) 神戸新聞・東播版】

戸 新 聞 19. 3. 17 (日) (第3種郵便物認可)

加古川、高砂市にまたがる高御位山系で、地元の登山愛好家グループ「高御位山遊会」の有志らが、ボランティアで登山道の整備に励んでいる。荒れた道の補修や案内板の設置などを進めており、砂川延也会長(79)は「皆さんに安全な登山を楽しんでもらいたい」と話す。(小森有喜)

高御位登山道 整備続け2年

愛好家グループ「安全に楽しんで」

高御位山系は別名「掃磨アルプス」。見晴らしの良い尾根を縦走するコースは人気が高く、県内外から多くの人が訪れる。しかし8年前、同山系の鷹巣山付近で、約119センチが焼ける大規模な山火事が発生。樹木が焼失して雨水が地面に心もと登っていることが...

高御位山系は別名「掃磨アルプス」。見晴らしの良い尾根を縦走するコースは人気が高く、県内外から多くの人が訪れる。しかし8年前、同山系の鷹巣山付近で、約119センチが焼ける大規模な山火事が発生。樹木が焼失して雨水が地面に心もと登っていることが...

数年前からは、水が登山ルートに流れ込んで表面を削り、道の中心が深くえぐれる現象が見られるようになった。登山ブームで多くの初心者が登っていることか...

2年前に同グループの有志が「高森ボランティア」を結成。毎月第3土曜日に10人ほどが集まり、危険な箇所や草木を切り払う作業などに取り組む。16日は鹿嶋神社(高砂市阿弥陀町地徳)の駐車場から出発し、鷹巣山頂に続く「馬の背ルート」の約10カ所を補修。水が登山道の左右にも流れ出るよう、つるはしやスコップで道脇に新たな溝を掘った。

メンバー最高齢は同市阿弥陀町の荘所広人さん(83)。この日も重さ約3キロのつるはしを勢いよく振り下ろし、「冬でも汗びっしょりだけど、地元の山だから大切にしながら、体力が続く限り続けたいね」と笑顔を見せた。

高砂市を拠点とする登山愛好家グループ「高御位山遊会」が4〜6月、高御位山などで初心者対象の登山教室を開く。

登山計画の立て方や地図の見方などの基礎知識を学ぶ座学は4月10、24日、5月8、19日、6月12日。午後7〜9時に高砂市高砂町松波町のユアアイ軌つとセンターなどである。実地トレーニングは4月13日、5月11日、6月2、30日に高御位山や六甲山で。7月20

高御位山など4〜6月に教室

22日は終了山行として、福井県や岐阜県境にある白山・三ノ峰を自指す。

定員先着20人。参加費3千円。終了山行は別途約3万円。住所、名前、年齢、連絡先、メールアドレスを記載し、メール(enryakase@kobe-hirokane.jp)かはがき(〒676-0003 高砂市高砂町松波町440の43)、ファクスで申し込む。同会長の砂川さん ☎079-442-1207 (ファクス兼)

登山道整備に取り組み、高森ボランティアのメンバー
高砂市阿弥陀町地徳

